

入学おめでとうございます



↑水元公園

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。
入学式が終わりそろそろ新しい環境に慣れた頃かな。
今までとは全然違った環境なので、初めは戸惑うこと
がたくさんあると思うけれど、心配はいりませんよ。
大洲中学校には、優しい先生方や親切な先輩たちが
いっぱいいるので、どんなことでも訊いてくださいね。
そして、元気な顔を図書館に見せに来てくださいね。



↑真間川桜堤

『本屋大賞 2025』大賞決定！

4月9日、ついに本屋大賞 2025 二次予選の投票結果が発表されました。今回の一次予選には全国488書店より書店員 652人、二次予選では336書店、書店員 441人の投票がありました。二次予選ではノミネート作品をすべて読んだ上でベスト3を推薦理由とともに投票しました。

その結果、2025年本屋大賞は阿部暁子さんの「カフネ」が決まりました。得点は581.5点でした。2位以下の結果は次の通りです。

2位 アルプス席の母 早見和真著 353点

4位 禁忌の子 山口未桜著 323点

6位 spring 恩田陸著 228点

8位 生殖記 朝井リョウ著 219点

10位 成瀬は信じた道をいく 宮島未菜著 163点

3位 小説 野崎まど著 345点

5位 人魚が逃げた 青山美智子著 234.5点

7位 恋とか愛とか優しい 一穂ミチ著 223点

9位 死んだ山田と教室 金子玲介著 196.5点

*投票の得点換算は、1位=3点、2位=2点、3位=1.5点

今回の私の予想は「小説」か「禁忌の子」のどちらかでは…だったのですが、見事にハズれてしまいました。それにしても、2位に大差をつけての大賞受賞です。立派なことですよね。

では、昨年度の図書館だより最終号で「カフネ」の内容についてはご説明いたしましたので、今回は著者の阿部暁子さんについてご説明いたします。

著者の阿部暁子さんは、1985年岩手県花巻市生まれ。2008年「屋上ボーイズ」で第17回ロマン大賞を受賞しデビュー。2020年の「パラ・スター」2部作は「本の雑誌」が選ぶ2020年度文庫ベスト10第1位に選ばれた。近刊に「カラフル」(2024年)があります。

【新規購入本のお知らせ】

・「世界でいちばん透きとおった物語 1・2」 杉井光著 新潮社



ベストセラー作家の宮内彰吾が癌により61歳で死去した。妻がいるのにもかかわらず多くの女性と交際し、その中の一人の女性との間にできた子供が藤坂燈真。宮内の長男からの連絡をきっかけに、父が最後に書いていたらしい「世界でいちばん透きとおった物語」を探しはじめるが…。



・「口外禁止」下村敦史著 実業之日本社

パッとしない大学生の元に突然「プロデュース通りに行動すれば、人生うまくいく。」という一通のメールが届く。半信半疑で従った結果、彼の日常は急速に好転し始めるが、ある日不可解な事件に巻き込まれてしまう。AI、闇バイトと、さまざまな角度から現代社会の落とし穴を描いた著者らしいミステリー×サスペンス。



・「35年目のラブレター」小倉孝保著 講談社

学校に通えなかったために読み書きができないまま大人になった西畠保さん。劣等感を抱きながらも手に職をつけ、結婚をして子育てをし、そして還暦を過ぎて夜間中学で学び始めた。愛する妻へ感謝のラブレターを書くために。映画なったとある夫婦の感動の実話。



・「謎の香りはパン屋から」土屋うさぎ著 宝島社

謎はクロワッサンのように折り重なり、カレーパンのように刺激的。第23回『このミステリーがすごい！』大賞・大賞受賞作は、パン屋での〈日常の謎〉を解く、“美味しい”ミステリー。「焦げたクロワッサン」「夢見るフランスパン」「恋するシナモンロール」「さよならチョココロネ」「思い出のカレーパン」。5つの謎からなる人の死なない連作ミステリー短編集。



・「楽園の楽園」伊坂幸太郎著 中央公論新社

所在不明の人工知能〈天軸〉の暴走で、世界が混乱に陥る近未来。開発者が遺した絵画〈楽園〉を手掛かりに五十九彦(ごじゅくひこ)、三瑚嬢(さんごじょう)、蝶八隗(ちょうはつかい)の選ばれし3人は、〈天軸〉の在処を探す旅に出る。書き下ろしの短編小説を、気鋭のアーティスト井出静佳の装画・挿絵とともに味わう「伊坂幸太郎史上最も美しい1冊」。



・「その嘘を、なかったことには」水木大海著 双葉社 *3年生女子のリクエスト本

家に帰宅すると、なんと男が死んでいた…。人気ロックバンドの新曲MVに出演したことで日常が嫌な方向に向いていく…。など、心地よさも心地悪さも味わえて、その先がどうなるのかが気になる物語を5編収録したミステリー短編集。



・「小説」野崎まど著 講談社

5歳で読んだ『走れメロス』をきっかけに内海集司の人生は小説にささげられることになった。12歳になると、内海は小説の魅力を共有できる生涯の友、外崎真と出会い、二人は小説家が住んでいるというモジヤ屋敷に潜り込む。そこでは好きなだけ本を読んでいても怒られることはなく、小説家・髭先生は二人の小説世界をさらに豊かにしていく。しかし、その屋敷にはある秘密があった…。



・「禁忌の子」山口未央著 東京創元社

救急医・武田の元に搬送されてきた一体の溺死体「キュウキュウ十二」。その遺体は、なんと武田と瓜二つであった。彼はなぜ死んだのか、そして自身との関係は何か、武田は旧友で医師の城崎と共に調査を始める。しかし鍵を握る人物に会おうとした矢先、相手が密室内で死体となって発見されてしまう。

一気読み必至の医療×本格ミステリー作品。

上記9作品の他2作品の合計11冊が5月初旬に到着予定です。ご期待ください！